

会社名	中日本パブリシティシステム名古屋㈱	主な設備、仕様機械	主な使用工具、器具		安全設備、保護具	使用材料	
作成日	令和7年6月25日	2tトラック、3tトラック、ロボアロー			ヘルメット、手袋、安全靴、安全ツツキ からまんでーW(黄旗)、しらすんたー受傷機 レッドホーンW(赤色棒)、消火器	規制材一式	
改訂日							
作成者	田中	運転免許(普通、準中型)、職長教育講習		作業人員	5 ～ 10 名	その他	
必要資格等							
備考							

作業工程	No	単位作業とその主な手順	危険有害要因(予測される災害・事故) (品質、トラブルも含む)	危険要因		危険有害要因低減対策		誰が		対策後		留意事項 【 参 考 図 案 】
				可能性	重大性	可能性	重大性	点検・確認	可能性	重大性	評価	
準備工		作業前ミーティング										
	1	作業打合せをする(危険予知活動)	現場、施工方法等について十分な知識を有していない	2	2	4	規制協議会(規制局)の確認をする	全員	1	2	2	・交通監視員(サーバー部)作業員(運転手、交通監視員(回収作業員))
	2	作業責任者の確認をする	作業員同士の意思疎通が行われていない	2	1	2	作業分組、配役、使用車両の確認をする	全員	1	1	1	・作業責任者の選定は、班員の中でも最も経験豊富な者もしくは、有資格者を基本的に選出する
	3	車両の点検をする	車両の不具合がある	2	2	4	車両点検をする(回転灯の作動も含む)	運転手・助手	1	2	2	
			荷物が飛散して事故がおきる	2	2	4	荷台に養生ネットを施し、規制材は、ロープ等で固定する	運転手・助手	1	1	1	
			スベアタイヤが落ちて事故がおきる	2	2	4	落下防止対策を確実にする	運転手・助手	1	2	2	
	4	規制機材の確認をする	規制材の数量、矢印の向き、電池の有無を確認する	1	2	2	規制機材を確認する	全員	1	1	1	
			電線機器(からまんでーWしらすんたー)が正常に動かない	2	2	4	電線機器の交換、電池等を入れ替える	全員	1	2	2	
	5	規制形番の確認をする	協議会通りの規制材でない	1	1	1	規制協議会(警備隊)の規制料を確認する	全員	1	1	1	
	6	工事現場との規制料との連携体制の確認をする	規制料内入りの、事故をおこす	2	2	4	作業箇所(HP)、車両出入り口(HP)、進入台整の確認をする	全員	1	2	2	
	7	夜間規制については、荷台を照らす照明機器を	自然光チェックの記録がある	2	2	4	配線、電池の確認をする、又は取り替える	全員	1	2	2	
		確認に配慮する	規制料が不足しない	2	2	4	出発前に補充確認をする(予備も持参)	全員	1	2	2	
移動		現場への移動										
	1	交通ルールを守り運転する	人身、物損事故	3	3	3	周囲確認をして運転する	運転手・助手	1	2	2	
	2	高速道路に入る前にプレート区間の確認	プレート区間外使用、不正使用	2	1	2	車寄、通行区間を二人以上で確認する	全員	1	1	1	
	3	出発										
	4	ハンドル切、サイドブレーキ、駐車止めを必ずする (待機場所)	車両が動いて、他のものに接触する 車両同士との接触 車両と作業員の接触	3 2 2	2 2 4	6 4 4	車寄呼称を行う 車両の接触は必ず保安員の指示に従う 保安員は運転手から見られる場所で待機を行う	全員 運転手 保安員	1 1 2	2 2 2		
本作業		規制材の設置										
	1	規制連絡を忘れる(一宮管制・高速線へ)	規制連絡を忘れる(一宮管制・高速線)	2	1	2	確認に連絡する	職員	1	1	1	・なから連絡をしないように
	2	作業車の設置・走行	ガードレールや通行車両との接触する	2	2	4	走行速度、周囲を確認して走行する	運転手	1	2	2	・車上・路上確認の手前で、確認場所は【工事車もしくは作業車】(右矢印)・ハザードランプを点灯し 横断走行を開始。(30km/h低速走行)
	3	規制機材、赤矢印板(従来の矢印板)を設置する	車両間接触、通行車両と接触する	2	3	6	車両通行側と側面反対側で作業を行う	全員	1	2	2	・原則、踏戻停車時、作業(南下しロープ撤去作業等)は、車道側で行かない
		(設置機材・岐阜県側設置区間及び500キロ100キロ 区間等(規制局による))	規制機材が風に煽られる	2	2	4	複数人で規制機材を確認を設置する	全員	2	1	2	・やむを得ず作業を行う場合は、通行車の上流に正しく、黄旗による一般車への注意喚起を行う
			強風により、規制機材が倒れる	2	2	4	強風に金具等が固定する	全員	2	1	2	・撤去時で境界が悪い場合は、少し位置をずらし確認性を確保する
			赤矢印板が外側側からみ出す	2	2	4	外側側から出ない位置に飛ばないよう固定し確認する	全員	2	1	2	
	4	可変機材がある場合速度規制の表示と矛盾しないよう、 適宜目印を設置。 ※中央分離帯側	速度規制と可変機材の矛盾 車線横断時、通行車両と作業員が接触する	2 2	2 3	4 6	設置時に適宜確認 横断可能と判断できるくらい直切れたのを確認してから、 監視員の合図で横断する	全員	2 2	1 1	2 2	・本線横断上流に監視員を配置し、監視員の合図で横断する
本作業		サーバー側の設置										
	1	ロボアローの作業準備	アームと人の接触	2	2	4	操作者は安全距離が確保されていることを確認し合図をする	全員	1	2	2	・ロボアローの立ち上げ手順は別添参照
	2	サーバー上流部に赤矢印板を使用し、赤サーバー設置 (人数は5名体制で設置)	危険物が転がり火災になる 通行車両と作業員が接触する	2 2	2 3	4 6	危険物が転がらないように措置を講ずる 作業員と監視員2名体制で監視員合図で赤サーバー設置する	全員 作業員・保安員	1 1	2 2	2	・手持ち部分確認を繰り返し確認する 赤矢印板の設置は、安全に留意し設置する
	3	規制協議会に基づき、矢印板を設置する	通行車両と接触する	2	2	4	上流側を確認し、ロボアロー作業箇所の注意喚起を行う	全員	1	2	2	・通行車両に十分注意し、安全に留意し設置する。危険時の1人作業禁止必ず専任の監視員の監督(監視員)を 作業員と監視員2名体制で監視員合図で赤サーバー設置する
	4	赤色AVライト、ピカポンを設置する	矢印板・赤色AVライトが突風等で倒れる	2	2	4	土壁等で固定する	全員	2	1	2	・交通量が多くサーバー設置まで所要時間(15分以上)は、現場からバックアップ車へ搬入し、 一旦撤去する必要がある場合は、撤去時に必ず確認員を配置
	5	サーバー設置完了後ロボアローを既定の位置に設置	車両、矢印板等への接触	2	2	4	走行する一般車、周囲の確認を徹底する	全員	2	1	2	・矢印板の転倒やずれに備え、補助作業員を配置 ・確認設置の下流を空ける
		ラバーコーンの設置										
	1	基本的には20m間隔でラバーコーンを設置する	スタッフや付き合者が動き出す	2	2	4	スタッフや付き合者に使用して、動かない事を確認する	全員	2	1	2	・ラバーコーンは、設置位置及び向きを統一して設置する
	2	ラバーコーンを落下させてケガをする	ラバーコーンを落下させてケガをする	2	2	4	落下防止の付く手袋を使用するなど落下対策を行う	全員	1	2	2	・ラバーコーン設置中、横断を感した場合は交代する
	3	規制解除位置に特殊機材・おびね機材を設置する	強風により機材が倒れる	2	2	4	強風に金具等が固定する	全員	2	1	2	・撤去機材は、撤去時に十分注意し、安全に留意し設置する
本作業		交通監視員・作業現場監視員の配置										
	1	交通監視員は、確認車の前方でサーバーを監視する 作業員が安全に責任者に報告	サーバー内及び監視員に通勤車両が突っ込む	2	3	6	避難場所を決めて、確保する	全員	2	1	2	・撤去機材は、撤去時に十分注意し、安全に留意し設置する。危険時の1人作業禁止必ず専任の監視員の監督(監視員)を 作業員と監視員2名体制で監視員合図で赤サーバー設置する
	2	作業現場監視員は、現場監視及び場内車両監視を行う					しらすんたーを装着し、作動確認を行う	全員	2	1	2	・作業車両の後退等の場合は、運転手より目視できる位置で警笛を用いて行う ・作業車両の流入は、進入箇所が分かるように合図を送り、進入しやすいように上流へラバーコーンを撤かし、 後退を行う ・作業車両の流出は、規制内より十分加減しながら下流側へ直進し、流出する ・やむを得ず 直進流出が出来ない場合は、進入時間同時に監視員の指示で流出する
本作業		ラバーコーンの撤去										
	1	規制協議会・おびね機材を撤去し、規制材車に替む	強風により機材が倒れる	2	2	4	撤去時は複数人で替む					・規制料車等で撤去時は、荷台に必ず専任の監視員を配置し、規制内に入る車両と衝突しないように
	2	規制料を後退させながらラバーコーンを積み込む	機材運搬車等によりラバーコーンを積み込み時、通行車両に当た	2	2	4	車間にははみ出さないように積み込む	全員	1	2	2	・事前に運転者と合図(警笛・無線等)を決め、規制料車で規制下流側より、ラバーコーンを撤去する
	3	工事内容表示看板片付け	強風により看板が倒れる	2	2	4	撤去時は複数人で片付け	全員	2	1	2	
本作業		サーバー側の撤去										
	1	サーバー上流部に赤矢印板を使用し、赤サーバー設置 (人数は5名体制で設置)	危険物が転がり火災になる 通行車両と作業員が接触する	2 2	2 3	4 6	危険物が転がらないように措置を講ずる 作業員と監視員2名体制で監視員合図で赤サーバー設置する	全員 作業員・保安員	1 1	2 2	2	・手持ち部分確認を繰り返し確認する 赤矢印板の設置は、安全に留意し設置する
	2	ロボアローを太郎、赤色AVライトまで後退し撤去する	規制中に通行車両と接触する 荷台へ機材品に手を挟む	2 2	3 2	6 4	通行側で作業しない 慎重に機材品を行う	全員	2 2	1 1	2 2	・通行車両に十分注意し、安全に留意し設置する。危険時の1人作業禁止必ず専任の監視員の監督(監視員)を 作業員と監視員2名体制で監視員合図で赤サーバー設置する
			規制物を荷台から落とす	2	2	4	慎重に確認を行い、養生ネットをする	全員	2 2	1 1	2 2	・撤去機材は、撤去時に十分注意し、安全に留意し設置する。危険時の1人作業禁止必ず専任の監視員の監督(監視員)を 作業員と監視員2名体制で監視員合図で赤サーバー設置する
			危険物が転がり火災になる	2	2	4	危険物が転がらないように措置を講ずる	全員	1 2	2 2	2	
	3	ロボアローの作業準備	アームと人の接触	2	2	4	操作者は安全距離が確保されていることを確認し合図をする	全員	1	2	2	・ロボアローの立ち上げ手順は別添参照
	4	矢印板を撤去	ロボアローと通行車両の接触	2	2	4	運転手、助手によるバックモニターの確認及び、補助作業員の監視	全員	1	2	2	・ロボアローと補助作業員及び作業監視員は安全な確認距離を確保しロボアローの死角に入らないよう留意す
本作業		<砲炎筒の使用時>	砲炎筒の持ち方により、火災になる	2	2	4	砲炎筒確認を行う	全員	1	2	2	・規制料は、踏んで砲炎筒が確実に火災した事を確認してから、現場確認をする (方が1人に備え、消火器を携帯する。) ※規制料が踏破・破損・破損の場合は、第一発見者(作業員)が砲炎筒現場を撤去する →回収可能な限り、安全に留意し撤去し回収する
本作業		規制材の撤去										
	1	次のJOC・SDCまで後退し、前進で規制料を確認をする	車両間接触、通行車両と接触する	1	3	3	車両通行側と側面反対側で作業を行う	全員	1	2	2	・原則、踏戻停車時、作業(南下しロープ撤去作業等)は、車道側で行かない
			規制機材が風に煽られる	2	2	4	複数人で規制機材を確認を設置する	全員	2	1	2	・作業終了時、規制機材の撤去確認を行い、撤去後は撤去する
	2	規制機材撤去後、終了連絡をする	強風により、規制機材が倒れる	2	2	4	強風に金具等が固定する	全員	2	1	2	
			規制連絡を忘れる(一宮管制・メンテ)	2	1	2	確認に連絡する	職員	1	1	1	
片付け		現場撤去										
	1	ロボアロー片付け	機材を上流にそのまま走行	3	3	3	運転手、助手で車両の一周し確認	運転手・助手	1	2	2	
	2	交通ルールを守り運転する	人身、物損事故	3	3	3	周囲確認をして運転する	運転手・助手	1	2	2	

【セーフティバイブル】

・全体編【WH-19】消火器

・規制編【RE-01】協議書

・規制編【RE-02】進入車両強制停止装置 とまぞーⅡ

・規制編【RE-04】からまんでーW、レッドホーンW

・規制編【RE-05】しらすんたー

・規制編【RE-24】矢印板用ウエイト

・規制編【RE-26】セーフティバー

・規制編【RE-27】鞍掛の位置

